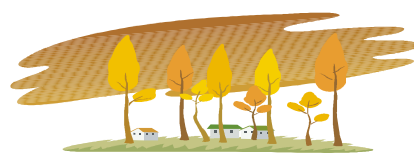


西宮ロット・エ・ガロンヌ交流市民の会

2012年12月12日発行 VOL.107 発行者：会長 森田正樹／編集：広報部

2012年も残すところあとわずかとなりました。年末年始の準備にお忙しい日々をお過ごしのことと思います。提携20周年記念訪仏の秋から、あっという間に真冬模様。今年は冬らしい冬となりそうです。体調にはくれぐれもお気をつけて、新しい年をお迎えください。

船坂ビエンナーレ終幕



西宮船坂ビエンナーレ2012が約1か月の会期をもって、24日に無事終了しました。池田さん準備から後片づけまでお疲れ様でした。

2回目となる今回の芸術祭は、「結（ゆう）connection」をテーマに50人の内外の作家が、泊まり込みで船坂ならではの美術作品を制作・展示されました。

市民の会にも関わりの深い松谷武判氏さんの作品も善照寺で見ることができました。仏像のまえに広がる白い布地の中央の黒い丸と球体、鉛筆でしるされた人の営みの刻こそが浄土なのでしょうか。

拠点会場は廃校となった船坂小学校、校庭には「生きる」の文字がはためき、テラスでは無数の風鈴が風の音をかなでていました。各教室ごとに1人若しくは1グループの空間が構成されており、「巣立ちの部屋2012」では、外にいと教室の中から児童の歌声が聞こえてくるのに、戸を開けると声はやみ、少し開いた窓にカーテンがゆらめき、白い紙屑みたいなもののみを残したがるんどうとなっている。廃校という事実と個人の旅立ちを感じさせました。

屋外の作品は前回より少なくなっていたように感じましたが、畑のなかで、黄色いひよこ（実は電球）が群れ、「空見ル段々休憩所」で、船坂の各家庭で使われていた古い椅子に腰かけるとススキの穂の向こうに色づきはじめた里山と青空が広がっていました。

「アート、だけじゃない芸術祭」として、音楽、ダンスそして食のイベントも盛りだくさんにありました。野菜や手作りジャムの販売、そば打ちもあったそうです。

写真は、勝木繁昌さんの「TIME TRAVEL」ですが、山口の竹細工も活用してつくられた物体が参加者の書いたメッセージをくくりつけて飛ぶというのですが、私が乗ると罪人護送用の唐丸籠に見えるというのが同行者の意見でした。



さくらやまなみバスに乗って別天地へ、小旅行気分アートが楽しめた1日でした。

（森田 正樹）

～カランドリエ～ サン・ニコラとノエル



フランスの一部地方（北東部）とドイツ、スイス、ベルギーなどでは、子どもたちにとって、12月はクリスマスのサンタクロースよりも、サン・ニコラの方に重きを置いているかもしれません。

サン・ニコラとは誰でしょう？

サンタクロースのモデルともいえる、トルコ（遠い！）で実在した司教で、とても親切で特に子どもを愛し人々から慕われ、奇跡を起こし聖人といわれたそうです。

亡くなった12月6日が、サン・ニコラの日となりました。



そして、12月5日の夜から6日にかけて、サン・ニコラは彼のロバと一緒に子どものいる家をまわって、良い子には飴やおかしをプレゼントします。子どもたちは、サン・ニコラを迎えるため、サンタクロースの時と同様、靴や靴下を暖炉前に置きます。それらの中にはサン・ニコラ用の果物と、ロバのためのお砂糖などを用意しておきます。ロバは良い子たちへのごほうび（飴など）を背負っているからです。

サンタクロースとの一番大きな違いは、パール・フェタール（ムチの父）という全身真っ黒（ハリウッド映画のスターウォーズのダースベイダーのような）でたち）の不気味なおじいさんがサン・ニコラの背後で待っていて、悪い子にはムチで懲らしめるということです。日本語で言うところの信賞必罰ですね。

12月5日もしくは最初の金曜日には、このサン・ニコラとパール・フェタールが、各幼稚園を回ります。

一部屋に集められた子ども達は、サン・ニコラに聞かれます。

「みなさん、この1年良い子にしていましたか？」

「はあい！！！」（子どもたち全員）

次にパール・フェタールが質問します。

「悪い子はいるかな」

「いません！」（きっぱりと返事する子どもたちと、大泣きする子どもたち）

見ていた私は、日本の東北の伝統行事「なまはげ」を思い出しました。

「この幼稚園には良い子しかいないね。ごほうびにお菓子とおもちゃ（幼稚園への寄付）をあげよう」

子どもたちはおやつをもらってほくほく顔で帰宅するのです。

幼稚園への遊具などの備品のプレゼントは市か、PTAなどからの寄付だと推察していましたが、子どもたちはサン・ニコラからだと思って疑いません。



また、文頭に書いた地方や国の各スーパーやおもちゃ屋さんには、ノエル（クリスマス）よりも、サン・ニコラの日に合わせて商品を 10 月くらいから展開します。

地域重視の伝統を重んじる家では、子どもたちへはクリスマスプレゼントよりサン・ニコラからのプレゼントだけになります。



両方を尊重しようという家では、サン・ニコラのプレゼントをメインで、ノエルのプレゼントは軽くします。

どちらにせよ、サン・ニコラのことをよく知らなかったフランス生活 1 年目は、サン・ニコラのお祭りが終わってからのおもちゃ売りの寂しさ（めぼしいものは売り切れ、まさに祭の後といった風情です）に驚き、少ない種類のおもちゃから息子用にプレゼントを選んだのでした。

ある時、息子に聞かれました。

「サン・ニコラのお話を聞いたことある？ 怖いお話だよ」

むかしむかし、お腹をすかせた貧しい子どもたち 3 人が食べ物をさがして、森にはいったそうです。

迷子にならないように、目印になるものを置いて歩いたのですが、不思議なことに目印は無くなっていて、迷子となりさまよっていたら、一軒の家を見つけたのです。

その主人である肉屋のおじさんは、3 人の子どもたちに優しく接し食べ物も分けたのですが、なんと、子どもたちが寝静まったころを見計らって刺し殺し、塩漬けにしたのです。

7 年後、肉屋の前を通りかかったサン・ニコラが肉屋の主人に尋ねます。

「3 人の子どもたちに会わせてください」

「子どもはいません。美味しいお肉がありますが、これを差し上げましょうか？」

「いえ、あちらに置いてある、あの大きな入れ物にはいつているものを見せてください」

サン・ニコラが肉屋の制止を振り切っていき、ふたを開けると元気な 3 人の子どもたちが生き返って出てきたのです。

肉屋はびっくりして逃げるのですが、後に反省して、パール・フェータルとしてサン・ニコラに付き添うようになったとのことです。



この話から、サン・ニコラは子どもを守る聖人として人々から大事にされているのです。

一般的に昔話というのは結構残酷だということは知っていましたが、幼稚園児にも伝えるということに驚き、文化の違いを感じました。

そして、12月最初の土曜日の午後に、サン・ニコラはクリスマスマルシェに現れます。夜には街を上げて花火などを行ったりもするようです。



世界遺産の街ナンシー市では毎年土曜の夜の花火スペクタクルに2万人以上の観客がいるそうです。

そして、翌日曜日の夕方からは、サン・ニコラのパレードが行われます。

イメージ的には御堂筋パレードや神戸まつりのような感じです。

各登録団体が工夫された華やかな山車と音楽と共に行進します。

沿道は一目見ようと言う観客により押すな押すなの大盛況です。

どの市も規模こそ違いますが、このパレードは行うので、隣接する場合、サン・ニコラの一連の催しが金曜日&土曜日と土曜日&日曜日の2つのパターンに分けているようです。連日はしごして、パレードを見ることが可能かもしれません。

パレードも終わり近く、最後の山車より1つ前に、主役であるサン・ニコラがロバと3人の子どもたちと共に豪華な山車の上に乗って登場します。観客からの投げキッスとともに投げ割れんばかりの大歓声など愛と喜びに包まれます。



そして、最後の山車は…

漆黒の衣装に身を包んだパール・フェタールの山車が登場します。

1つ前のサン・ニコラの山車に対するものとは打って変わって、観客全員が親指を下にして大声でブーイングします。パレードの山車に悪態をつくことなど見たこと無い日本人にとっては、結構衝撃的な光景です。

パール・フェタールの山車を見送ると一連のサン・ニコラのお祭は終了です。

極寒の真冬の夜を暖めるため、大人たちはヴァン・ショー（ホットワイン）、子どもたちは温かいココアとサン・ニコラの形をしたお菓子（パンデピス、香辛料のはいった菓子パン）を食べて、週末が終わります。

12月のヨーロッパは子どものためのサン・ニコラと、大人のためのノエルに、年末の大騒ぎと、寒くも華やかな月なのです。

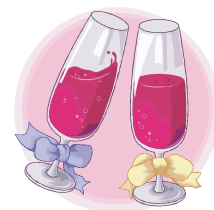
（藤枝知子）



いよいよ今年も最後の月を迎えました。

11月号でお知らせいたしましたように、今年は会場の都合で忘年会ができなくなりましたので、2013年の新年会を手作りで盛大に、楽しくやることといたしました。

10月のロット・エ・ガロン又訪問団のお土産話もきけそうです。おいしいお土産もお楽しみに。奮ってご参加ください。



日 時：2013年1月13日（日）16時より
（準備のお手伝いをしていただける方歓迎=15時集合）

場 所：フレンテ西宮4F/国際交流協会第2会議室

参加費：¥1000（差し入れ歓迎）

申込み：メール info@nleg.net またはファックス 0798-32-8673 で。



今年度も西宮市国際交流協会主催の国際交流デーに出展予定です。

2013年2月17日（日）フレンテの4Fと5Fが会場です。

例年通り、ドライフルーツやビュゼのワイン他を販売予定です。詳細は会報1月号にて、ご案内いたしますが、皆さまのご予定にいられておいてください。



<編集後記>

一年があっという間とを感じる12月です。漢字の日の一文字は、一年を振り返る楽しみでもあります。ピエンナーレは「結」がテーマでした。漢字の日の初年（1995年）は「震」の文字。阪神淡路大震災をはじめ、震撼させる事件がありました。毎年「そうだったよねえ」と、しみじみ一年を振り返ります。私の今年を一文字で表現するとすれば「縁」でしょうか。提携20年です。訪仏の旅を通して、同行させていただいた方々とフランスの友人、そして何よりも、今日までこの会の諸先輩方が繋いでくださった縁を感じた次第です。みなさまの一文字は何ですか？（牧）

事務局：〒662-0911 西宮市池田町11-1 フレンテ西宮4階 秘書国際課内

Tel:0798-35-3468 Fax:0798-32-8673

Home Page: <http://nleg.net>

E-mail: info@nleg.net